



# 松伏町の現状・分析結果等について（要点）

## 1. 地域の概況

### 《地勢等》

- 都心から 30km 圏内にあり、野田市、吉川市、越谷市、春日部市に接しています。
- 人口約 2 万 8 千人が暮らし、大落古利根川沿いに住宅地がひろがる一方、北部や中川沿いには農地がひろがっています。

### 《人口等の状況》

- 人口は減少に転じ、**少子・高齢化**が進んでいます。  
高齢者人口は増加し、高齢化率（65 歳以上）は約 **3 割**となっています。
- 世帯当たりの人口は減少し、**一人暮らしの高齢者**が増加しています。
- **将来**の推計によれば、人口減少、高齢化は、今後も進み、2040 年代には高齢化率（65 歳以上）が 4 割を超え、**4 人に 1 人が 75 歳以上**となる見通しです。
- 人口は、**南西部に集中**していますが、**町域全体にひろがっている**状況です。  
一人暮らしの高齢者の居住地も、**町域全体に薄く**分布しています。

### 《施設等の立地状況等》

- **町内**に規模の大きい**店舗、病院**が立地しており**多くの町民が利用**していますが、越谷市等の**町外へ出かける町民も多く**みられます。町内には**高校 1 校**が立地しています。
- **町内に立地する病院**の例では、**近傍の地区**に住む町民の利用が多いものの、**町内の離れた地区からの利用**もあります。また通院する人は、**70 歳代を中心とする年代**が多くなっています。
- 一方、**町外の越谷市に立地する病院**の例でも、利用する人の 1 割弱を**松伏町民**が占めており、同様に **70 歳代が中心**となっています。

## 《通勤・通学、利用交通手段の状況》

- 通勤・通学の例では、町民のうち**町内へ通う人は2～3割**であり、町外へ通う人が多くなっています。

町外へ通う人の中では、**越谷市をはじめ県内**が多いものの、**東京 23 区**へ通う人も多くなっています。

- 通勤・通学の**利用交通手段**について、**町内**へ通う人は、**クルマ（自家用車）と自転車**が中心です。

**県内他市町**へ通う人は、**クルマが突出**して多い状況です。

**県外**へ通う人については、**鉄道**が最も多く、次いで**クルマ、バス**の順で多くなっています。

- 町民の人口が減少しているのに対し、**運転免許保有者数は、横ばい**の状況です。また、高齢化の進展に伴い本町の高齢ドライバーは微増している状況です。

（町民全体の免許保有率は約 75%、高齢者でも約 60%となっています。）

⇒ **ポイント** 人口減少、高齢化が進む。

⇒ **ポイント** 町内の外出と、越谷市等の県内の市、都心への外出がある。

⇒ **ポイント** 近傍の外出は、高齢者等も含め、クルマ中心（運転、送迎・同乗）。（町民へのアンケート結果もご参照）

遠方への外出で、バス、鉄道が利用されている。

## 2. 公共交通の状況

### 《公共交通ネットワーク》

- 町内を運行する路線バス（2社）が、町外の鉄道駅との間をつなぎ、これらをタクシーが補完するネットワーク。
- 人口の多くがバス停の利用圏域に居住していますが、利用圏域外にも人口が分布しています。

### 《公共交通の利用状況等》

- 路線バスの利用客数は横ばいの状況でしたが、コロナ禍で落ち込みました。これに伴い、収入も大きく落ち込みました。
- バスの利用客数は、以前から路線によって差が大きく、北越谷駅、南越谷駅方面の路線の利用のみが多い状況です。
- コロナ禍に見舞われる中、バスの実車走行キロ（運行距離と回数）は、これまで維持されてきましたが、一部の路線の運行回数が令和5年に変更（減少）となりました。
- 本町のタクシーの輸送回数も、コロナ禍の影響を受け大きく落ち込みました。
- タクシーの実車1回当たりの利用距離は、コロナ禍以降、短くなっています。
- タクシーの実車1回当たりの輸送人員は経年的に1.3人前後であり、1人での乗車が多いものと見受けられます。

### 《その他、公共交通事業者の状況》

- バス、タクシーの乗務員不足が全国的に深刻化しており、運行事業者は厳しい運営状況となっています。

⇒ **ポイント** 路線バスの利用圏域が人口の多くをカバーしているが、圏域外にも人口が残存。

⇒ **ポイント** バス、タクシーとも、コロナ禍で利用客数が落ち込み。

⇒ **ポイント** 運行事業者は、全国的な乗務員不足で、厳しい運営状況。

### 3. 本町のまちづくりの主な上位・関連計画の考え方

#### 松伏町第 6 次総合振興計画（上位計画）

- 重点戦略として、「こどもや高齢者にやさしいまちづくり」、「次世代につなぐ活気とにぎわいのあるまちづくり」を掲げています。
- 「次世代につなぐ活気とにぎわいのあるまちづくり」では、**公共交通の充実を図り、活気とにぎわいのある次世代へのまちづくり**に取り組むこととしています。
- 施策「持続可能な公共交通の整備と拠点づくり」の実現のための取り組みとして、「地域公共交通の維持」、「公共交通の拠点づくり」、「交通利便性の低い地域に住む方への支援」、「交通 DX や環境負荷低減の取り組み」、「高速鉄道東京 8 号線の整備促進」などを掲げています。

（計画期間：2033 年度まで）

#### 松伏町立地適正化計画（関連計画）＊現在策定中

- まちづくりの方針の 1 つとして、「**活気とにぎわいを生み出す公共交通ネットワークの整備・充実**」を掲げています。
- 公共交通施策として、バス・タクシーの維持のための公共交通事業者との協議・支援、デジタル技術の活用、地域公共交通計画の策定や、広域幹線道路の整備と BRT の導入の要望活動、バスターミナルを併設した道の駅の設置の推進、高速鉄道東京 8 号線の松伏新駅を想定した町の核づくりなどを挙げています。

（計画期間：2045 年度まで）

⇒ **ポイント** まちづくりの上位・関連計画において、活気とにぎわいのある「次世代へのまちづくり」に向けて、公共交通を充実することが掲げられている。

## 《松伏町をとりまく現状・問題及び調査等をふまえた今後に向けての課題》

### （１） 厳しい運営状況のなか、将来にわたり、外出手段を確保・持続していくことが必要。

本町では、人口減少、少子高齢化が進んでおり、高齢者等の外出手段の確保がますます重要となります。現状で、人口の多くが路線バスの利用圏域でカバーされていますが、まだカバーしきれていない箇所が残っています。

一方、バス・タクシーの事業者は、全国的に乗務員不足・高齢化が深刻化しています。

人口減少はさらに進む見通しであり、厳しい運営状況にある中で、将来にわたって、外出手段を確保・持続していくことが必要となります。

また、既存の公共交通を維持していくためには、定期利用者等を確保していくことも必要となります。

### （２） 外出パターンに応じた利便性を確保・充実していくことが必要。

町民の日々の暮らしにおいて、町内の外出、越谷市・都心方面等の町外への外出があります。また、町外から本町へ通っている生徒もいます。

細部についての要望等はあるものの、日常的にバス、タクシーで出かけている人々にはおおむね便利に使われているものと見受けられます。

今後、種々の調整や工夫等を行いながら、外出パターンに応じた利便性を確保・充実し、より多くの人に使って頂けるようにしていくことが必要と考えられます。

また、町民のなかでも特に子どもや高齢者等が利用しやすい環境をつくっていくことも必要と考えられます。

### （３） まちの活気とにぎわいに貢献していくことが必要。

本町では、活気とにぎわいのあるまちづくりを進めているところです。その中で公共交通は、活発な外出や、まちなかの人の往来を通して、次世代へのまちづくりに貢献していくことが必要と考えられます。

一方、現状では、町民の多くがクルマ中心の外出スタイルとなっており、鉄道と乗り継ぐ場合にだけバスを使っているような人も多いため、将来に向けて、使える時に使える人が少しずつでも公共交通を使うようにしていくことも必要と考えられます。